

北海道

NO 120
平成22年 1月 1日

碎石だより

(社)日本碎石協会北海道地方本部



寅 2010
子支也 虎



新たな年にむかって

今年はとら年、パワー溢れる虎にあやかり、ワイルドに行きましょう。

“千里行って、千里帰る”といわれる虎のエネルギーをもってすれば、
碎石協会に不可能という文字はない！！

(社)日本碎石協会北海道地方本部 本部長
北海道碎石協同組合連合会 会長

岡本 繁 美



新年あけまして

おめでとうございます。

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

昨年、政府は世界的金融不安による経済不況から脱却すべく、緊急経済対策として補正予算を組み景気の回復に取り組み、ようやく薄日の差しはじめを感じてきた8月、政権が交代し新たな政権は景気回復のための補正予算を全面見直し、景気回復に水を差すように予算の執行停止等矢継ぎ早に方針を打ち出しました。

ハードからソフトへの転換を掲げた政策を否定はしないものの、「費用対効果」、「優先度」の判断基準をもつて公共工事を一律に削減する政策は許されて良いものでしょうか。

北海道は広大な面積を有し第一次産業を基幹産業としており、北海道経済は公共事業に依存せざるを得ない特異的な地域であります。

北海道経済が活況を取り戻すには、生産地と消費地とを結ぶ幹線道路の整備や北海道新幹線の札幌までの延伸は重要な課題であります。

交通網の整備を図ることにより北海道の観光資源は活かされ、北海道ならではの農畜産物が本州各地へ移出できることとなります。

碎石業の現状は、道路整備事業の

減少に加え建設リサイクル計画の推進により再生骨材の優先使用が定着化し路盤材を主とする碎石の需要が大幅に減少しております。また、低入札価格の影響を受け碎石価格の低迷も続いております。さらに、原油価格の高止まりから資・機材が値上がりし、生産コスト、輸送コストが上昇し事業を運営するための自助努力も限界に達しているところですが。

碎石業界が企業収益を回復し経営を安定させていくためには、これまでも取り組んでいる技術力の向上と徹底したコスト削減による経営体質の強化に加え、将来を見据えた経営方針の確立、経営の共同化、協業化、経営統合などの検討を碎石協会全体の問題として検討していく必要があると考えております。

碎石業界には、社会資本整備や住環境整備として碎石を持続的、安定的に供給する使命と自然環境に調和

した採掘、跡地の整備・緑化等他の模範となる事業の推進が求められています。

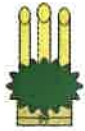
地域の人々に信頼され地域と共存できる取組を企業各社が責任を持って取り組むことが必要であります。

労働安全対策については、他産業に比して碎石業における重大災害が多発している現状に鑑み、各企業においては施設災害、行動災害の未然防止対策を確立し災害のない職場づくりに努める必要があります。

本年も厳しい一年になることが想定されますが会員が丸となって諸問題の解決に取り組み明るい兆しが見える年となることを祈念し年頭のご挨拶とします。



北海道国有林採石協会 会長 辻 庄 嗣



明けて

おめでとうございます。

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年7月、北海道国有林採石協会は初めて全道研修会を夕張市で開催したところ多くの会員の皆さんのご参加を頂き盛会に終える事ができました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。本年11月、北海道国有林採石協会は創立30周年を迎えます。

昭和55年11月、国有林から砕石用の原石等を買受けている企業18

社が相集い原田外吉氏を初代会長として発足したところでございます。

以来、国有林内で採石を営む企業は増え会員数も最高57社となりましたが、現在、会員数は41社となり国有林内で原石採取している企業数は24社となっております。

創立当初の北海道営林局への要望を見ると、原石の売払い単価の見直しについて記されておりました。

30年前から現在まで原石買受け単価について要望してきており、なんとしても今年解決して頂けるよう要望していく考えております。

日本経済に目を転じると、昨年8月に行われた衆議院総選挙で政権が交代し、新政権は景気回復予算である補正予算を全面的に見直すとともに未執行予算については停止させま

した。

新年度予算についても公共事業の更なる削減を打ち出しております。

北海道は一次産業と観光産業を主体とする地域であり公共事業に支えられてここまで発展してきました。

北海道は交通路網の整備が遅れており、路網の整備は喫緊の課題であります。また、北海道新幹線の札幌までの延伸についても、本州各地への農産物の移送が早まり、観光産業の活性化にも繋がります。

民需が期待できない中で、公共事業の削減は砕石業にとって死活問題であることから、(社)日本砕石協会北海道地方本部と連携した取組みを行うていく必要があると考えています。

国有林野内で事業を行っている我々は、森林の持つ公益的機能の発揮をより重視した森林整備を進めるといふ国有林野事業の使命に鑑み、これまでも増して他の模範となる

よう自然環境の保全に配慮した事業を推進することはもとより、採石跡地の整備・緑化等に努め社会基盤整備のため砕石を持続的・安定的に供給していく使命を有している事を積極的にP・Rすることが重要であると考えています。

北海道国有林採石協会傘下の企業における重大災害の発生はありませんが、事業を円滑に実行するためには労働安全の確保がなによりも重要であります。

会社一丸となって安全対策を確立し、これまでも増して災害のない職場づくりに努めて頂きますようお願いいたします。

本年も建設業界を取巻く環境は厳しいことが想定されますが、協会員一致協力し合い明るい兆しに見える一年になるよう努力することを祈念し年頭のご挨拶とします。

北海道国有林採石協会

全道研修会を開催

北海道国有林採石協会は7月16日、17日の両日、夕張市で全道研修会を開催しました。

全道研修会には協会会員26名、来賓として北海道森林管理局、地元、空知森林管理署から7名の出席がありました。

初日は、全国国有林採石協会通常総会並びに懸案事項への対応状況について報告や意見交換を行い、その後特別講演として、北海道森林管理局上野森林整備部長から「最近の国有林野事業の動向について」、夕張市の藤倉市長が「夕張市の活性化について」講演されました。

藤倉市長は民間会社社長から転身された方で夕張市の再建にかける想いを熱く語られるとともに、市長としての役割をしっかりと演じることが

大切と話されました。

市長の話は会社経営を行っておられる協会員にも共鳴できる場所が多々あったことと思います。

懇親会の余興のビンゴゲームに井出組澤田社長さんから、映画「北の零年」主演女優吉永さゆり自筆サイン入りポスターが提供され、三ツ輪砕石(株)佐藤亨さんが見事当てられました。(よかった！)



翌、17日は石狩川開発建設部が所管しているシューパロダムの工事現場を視察し帰りには花畑牧場へ立寄り生キヤラメルづくりを見学、最盛期の夕張メロンを購入し昼食後全道

研修会を無事
終えました。

全道研修会
開催に何かと
ご尽力頂きま
した井出組澤
田社長にお礼
申し上げます。



第四回合同理事会を函館で開催

平成21年度(社)日本砕石協会北海道地方本部、北海道砕石協同組合連合会の合同理事会を9月17日、18日の両日、函館市湯の川観光ホテルで開催しました。

道本部、組合連合会、函館支部役員など24名の出席があり熱心な意見交換が行われました。

移動理事会は道本部、連合会役員が一同に会し、地域の実情を見聞し地域の実情を協会活動に結びつけて

いくことを目的として開催しており、昭和55年に小樽で開催した移動理事会を皮切りに各地方本部管内をローテーションで廻って行ってきました。

8月の衆議院選挙で民主党が圧勝したことで、これからの国の経済対策がどうなるのか不透明感が漂うなかでの理事会でした。

公共工事の減少から砕石の需要が減少、再生骨材の優先使用、更には鉄鋼スラッグの公共工事への使用と砕石業界の厳しい現状報告がありました。

道本部、連合会としましては現状報告をもとに関係行政機関に対し働きかけるとともに会員の皆さんへ情報提供してまいります。

翌、18日は絶好の青空の下、アンビックス函館倶楽部上磯コースゴルフで会員相互の親睦を図るため交流を深めました。

昨日の疲れもなんのその、日頃鍛え

た腕前を存分に発揮された宮本義久理事が優勝の栄に輝きました。

移動理事会の開催をお引き受け頂きました函館支部の松田支部長、平沼副会長をはじめ役員の皆様、そして事務局の皆様、大変お世話になりました。有難うございました。



平成二十一年度
「一般粉じん関係公害防止管理者
資格認定講習」札幌で開催

12月18日(金)～19日(土)、(社)日本砕石協会が主催する平成21年度一般粉じん関係公害防止管理者資格認定講習会が札幌市で三年ぶりに開催され、全道各地から42名が公害防止管理者資格取得を目指し受講されました。

(社)日本砕石協会岡本副会長の開会挨拶で「特定工場に公害防止管理者

配置の必要性を話され、受講される皆さんは、公害防止管理者として会社の力となって頂くために講習会に参加していることを自覚し、全員が修了試験に合格するよう頑張ってください。」と激励された。

講師には早稲田大学の名古屋俊士、村田 克、両先生が二日間にわたり公害総論、大気概論、ばいじん・一般粉じん特論の科目を講義し修了試験を行うカリキュラムとなっている。



受講された皆さんが真剣な眼差しで講義に耳を傾けている姿が印象的でした。全員
の合格を祈念
しています。

原田留萌支部長
『北海道産業貢献賞』受賞

平成21年度北海道産業貢献賞授賞式が11月6日札幌グランドホテルで開催され、北海道産業の発展に貢献してきた商工鉱業、観光労働関係の功労者66名と一団体が知事表彰に輝き、我が砕石業界から留萌支部長の原田紘一さんが受賞されました。

原田支部長は(社)日本砕石協会留萌支部長、留萌地方砕石協同組合代表理事(理事長)として会員企業の経営基盤の確立と経済的地位の向上に取組まれてきている功績と(社)日本砕石協会北海道地方本部長、北海道国林採石協会会長として砕石業界の基盤整備、発展に尽力されてきた功績に対し受賞されました。

また、北海道の地域産業経済の中心となって活躍されてきた功績に対

して受賞されました。授賞式には由紀子夫人を伴い出席されました。

高橋はるみ知事の代理として出席した高原陽二副知事から永きにわたる貢献に対して労いの言葉をかけられ更なる尽力をお願いされたところです。



道外研修旅行に参加して

(社)日本砕石協会 札幌支部
採石業務管理者部会

8月30日の未明、山が動いた処か日本列島が動いた程の衝撃が走った衆議院選挙の余韻が冷めぬ翌月の6日、我々一行12名は集合の朝7時45分迄全員、千歳空港一階の全日空の団体ロビーに集合した。

さすがに砕石山の現場管理者の集団、時間に遅れる者は皆無であり夫々の顔は9年振りの道外研修の再開の喜びに輝いていた。

9年間の歳月はメンバーの3分の2を若らせ一昔前の研修を知って居るのは部会の古狸の私と今回、特別参加の岡本部長、杉下部会長、田代副部会長、北菱産業埠頭(株)の渥美生産部長の4人と記憶しています。ベテラン、ハラダ産業の安保さんで

も其の頃は二代目部会長の旗智さんの全盛期で一緒に参加した記憶がありません。まさに業務管理者部会の世代交代を象徴する研修旅行と成りました。

8時30分千歳を飛び立ったAN A52便は予定通り羽田空港に到着、チャーターバスで茨城県笠間市にむかった。

羽田から都心、千葉県の高速道路を北上し豊かな関東平野の田園風景や水郷地帯ののどかさを楽しむうち13時に岡本興業(株)笠間工場に到着した。

正直言つて本部長の山の主力工場であり新鉱区への切り替えや県道を横断するベルトコンベアーや旧鉱区の整形緑化等、見学が決定した時から興味を持って居た事を自分なりに納得して行きたいと思ひながら会議室に案内された。

岡本取締役よりスライドを使い会社案内や切羽の概況説明、プラント

の能力等の説明を受け現場研修に出た。

私は、他山の見学やパトロールに出向いた時一番先に注目するのは採掘跡地である。

採掘中の切羽は、其の時の原石撫存状況や時の需要動向で開発形状は変化や違いがある。

安全を優先させた採掘であれば良しとしている。ところが、跡地処理は会社のポリシーから社員の技量、経営者の砕石に対する熱意迄如実に映し出すからである。

それで、見事に造成されたベンチと大走りに植えられた木々の活着状態を目の辺りにして、急激に感動と喜びが湧き上がり、さすが俺が部長の山と改めて納得した。



長い間の地主との交渉の末に新鉱区開発を決定し、県道向かいの国有林の表土剥ぎを終えて、品質の良い砂岩の採掘に辿り着けたスタッフに敬意を表したい。

その象徴として、県道を横断するコンベアーが地域に根を降ろした岡本興業の笠間で存在の大きさを、私に充分に伝えてくれました。

大きな満足感に包まれ14時30分過ぎに笠間工場を辞し、本日の宿泊地水戸市に向かいました。

翌日7日はホテルを7時に出立、第二の研修先、鹿島市の住金マネジメント(株)の安全体感研修会場に向向き、9時より12時迄、誰もが経験の無い安全体感教育を通して貴重な勉強をしました。

37項目の内16項目の受講でしたが、如何に我々の安全活動が上滑りで底の浅い物である事を知らされました。

玉掛け作業の手指挟まれ体験では、

クレーンで吊り上げる鋼管とワイヤに挟まれた竹の棒の破損状況を見て、これが私の指であったらと悪寒さえ走る思いでした。

さらに、高速回転体巻き込まれ体験では、電動モーターの回転部に湿りを与えられたタオルが瞬時に巻き込まれて行く様を見て、回転部にカバーさえ掛けていれば大丈夫と言う考えが甘い事を痛感しました。人間の行動

のなかで、立ち仕事や座って仕事するより腰の負担が軽い事も初認識で、重機のおペレーターに腰痛者が多い事もうなずきました。



電気危険体感コーナーでは、目に見えない電気の恐ろしさを実感させる、人体を流れる電流の危険数値や、漏洩電流と水分の関係で大きく変わ

る危険性とその防止対策を理解出来た事は大きな成果でした。

高所危険体験設備での安全帯の正しい使用方法と、高所から墜落した時の衝撃力の凄まじさに職場に戻り作業手順を見直し、備え付けの安全帯の交換も実施しなければと思いを新たにしたところです。

その他の体感研修を含め、我々の日常の安全活動を別の角度から見直し、更なるリスクの掘り出しに日々努めなければ人間が仕事をする以上、生活していく以上、災害はゼロには成らない事を再認識する貴重な学習の場と成りました。

住金マネジメントの講師の皆様にご心より感謝すると共に、「御安全に」の言葉で全産業が包まれる様、今後も啓蒙されます事を願います。

以上、二カ所の研修の合間に見学をした水戸の偕楽園、横浜の中華街、浅草の浅草寺も部員の親睦と見聞を広める適地で日本文化を十分に味わ

う事が出来ました。

今回の研修の何よりの成果は、この2泊3日の研修を立案計画をした7代目杉下部会長の指導力と、部会の団結力を再確認出来た事でした。

この研修を糧に、若手の部会員が自山に戻り一山一家の心で現場を指導し無災害を目指して切磋琢磨される事を切望致します。

最後に、岡本部長を始め支部役員の皆様のご支援並びに加藤事務局長の御努力に心より感謝致し拙文を閉じたいと思います。

【長田六男記…
菱光手稲砕石株式会社工場長】



心からご冥福をお祈りいたします

札幌支部菱光手稲砕石株式会社工場長長田六男さんが病氣療養中のところ、平成21年12月10日午前急逝されました。

長田さんは菱光手稲砕石株式会社工場長として長く生産業務に携われ安全操業にご尽力されました。

また、社団法人日本砕石協会札幌支部採石業務管理者部会長として四年間在職され、その間、会員事業所の安全操業に対する指導、若手技術者の育成、安全衛生、生産技術、山づくりのレベルアップに率先して取り組まれました。

昨年、採石業務管理者部会研修会報告を「北海道砕石だより」に投稿して頂いた矢先の訃報となりました。永きにわたる砕石事業に対する貢献に感謝するとともに、心からのご冥福をお祈りいたします

<平成 22 年度 前期 行事予定>

月	【道本部・連合会】	【本部関係】	【その他】
1	29日 正副本部長会長会議 " 理事会		18日 北海道国有林採石協会 役員会
2	26日 通常総会	未定 技術・安全委員会	25日 砂利協・工組総会 26日 北海道国有林採石協会 通常総会
3	上旬 支部事務局長並びに 事務担当者会議 15~16日 掘削作業主任者技能講習	上旬 第5回正副会長会議 中旬 第101常任理事会	
4		16日 平成22年度理事会	
5	下旬 理事会 " 決算総会	28日 平成22年度通常総会	中旬 北海道国有林採石協会 役員会
6			上旬 全国国有林砕石協会 通常総会

迎春

**(社)日本砕石協会
北海道地方本部**

理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副部長	副部長	副部長	本部長
天方智順	出口廣樹	石田信雄	平沼昌平	松田敏宏	粥川照雄	原田紘一	五十嵐正義	宮本義久	青木伸	橋井一実	辻庄嗣	渡辺正利	岡本繁美

北海道砕石協同組合連合会

理事	理事	理事	理事	理事	副会長	会長
渡辺正利	加藤達也	原田紘一	橋井一実	山本文博	辻庄嗣	岡本繁美
	専務理事	監事	監事	理事	理事	理事
	毛利敏昭	青木伸	河合道明	曾我部喜市	松田敏宏	粥川照雄

北海道国有林採石協会

専務理事	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副会長	副会長	副会長	副会長	会長
毛利敏昭	杉下隆彦	岸本教範	旗智勇雄	蛭沢春雄	原田俊之	粥川照雄	高木裕治	植田宏一	澤田宏一	星加範保	惣万優夫	中村辰夫	石田信雄	辻庄嗣

◆ 編集後記 ◆

新年明けまして
おめでとうございます。
本年もどうぞ
よろしく願います。
「北海道砕石だより」
新年号を会員の皆様の
お手元にお届けいたし
ます。

昨年は「政権交代」が
流行語大賞となりました
が、私たち業界の暮らし
向きは「生活後退」となっ
てしまいました。
今年はずっと経済状況
は良い方向に向うと祈念
してポジティブな気持ちで
一年のスタートを切りま
しょう。

編集事務局一同

